



No.54 2020.5.20

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

オンライン授業絶賛も、プリント渡すだけでも疑問

【休校が長引くなか学校にできること】

Yahoo ニュースの見出しに「オンライン授業絶賛も、プリント渡すだけでも疑問【休校が長引くなか学校にできること】というちょっと刺激적인見出しが飛び込んできました。記事を読んでみると・・・

■プリント渡して、あとはよろしく!?

学校不信、教育不信が高まっている。このところ、よく見聞きするのが、休校(臨時休業)がこのまま長引けば、「子どもたちの学びの遅れが心配だ、取り戻せないことになりかねない」という論調だ。急に浮上したかに見える9月入学、9月新学期の主張も、ここ1、2ヶ月の学校、とりわけ公立校の対応が満足できない、ふがない、という認識が背景にあるように思う。……………



<https://news.yahoo.co.jp/byline/senomasatoshi/>

(妹尾昌俊さんのYahoo ニュースのページです)

ちょっと刺激的な書き出しですが、読んでいくと今回の新型コロナウイルス感染症が社会に投げかけた課題の教育版といった感じで、今できること、今しなければいけないこと、再開後しなければいけないこと、新たな時代に向け考えていかなければいけないこと等、まさしく学校だけでなく、保護者のみなさん、地域のみなさん、そして子どもたちとも一緒に考えていく上での地図になるのではと思います。今、明石の学校ではオンライン授業はまだですが、動画での授業や学校ニュースなど様々な工夫がホームページ等でされ、動き始めています。そんな明石の学校のホームページで次のようなメッセージを見つけました。

ご心配が多いと思います！ ～家庭学習について～

学校休業が続き、学校からの課題も多くなっています。これだけ休みが続くと夏休みの宿題のように復習中心の課題だけでなく、まだ学校で学習していない内容についても課題として子どもたちに「挑戦」させることを文部科学省から指示をされています。つまり日本全国でまだ学習していない内容が出されています。

では、「その課題に対してご家庭ではどのように考え、どのように子どもたちは学習していくべきか？」

おうちの方から聞かせていただく声には・・・

「うちは共働きで、子どもたちの課題を見てあげる時間は週末しかありません。週末くらいは子どもと楽しく過ごしたいという思いと、しないといけないものはきちんとさせたい。そんな気持ちに挟まれとても苦しい思いをしています。」

「まだ学習していないこの課題は、『親が子どもに教えて下さい』という意味ですか？それとも、『子どもが自分で教科書を読んで自分でやれるようにして下さい。』という意味ですか？教えてください。」

「我が子は問題が難しく、課題を進められずイライラしています。日頃からそんなに優しい言葉で親子の会話がなされているわけではありません。親としてとてもつらいです。どこまで頑張ればよいのでしょうか？この課題は評価の対象になるのですか？」

等々です。きっと学校まで聞こえてくる声は、ほんの一握りだと思います。保護者の方々に大きなご負担をおかけしています。

.....

「学校は、課題を出して放ったらかし！」という声をネットで見ました。学校は決してそんなつもりはありませんが、そのように言われる気持ちもよくわかります。

ただ、学校としては「どうしたら、子どもや家庭とつながることができるのか？」と悩んでいます。HPを使ったり、郵便や下駄箱を使ったり課題の交換、すぐメールを送ったりと工夫はしているつもりですが、まったくまったく足りているとは感じていません。電話や散歩のついでに職員室に寄り、話をされる方もいます。そのように即時に思いを交換できた時はうれしい気持ちになります。

どうか、困ったことがあれば遠慮なさらず、ご連絡ください。担任は在宅勤務等でいない場合もありますが、学校として、精一杯力になれるように頑張りたいです。

よろしくお願いします。

ホームページでこのメッセージを目にして、ハッとしました。妹尾昌俊さんの記事ではなく、まさしく校区の生の声です。学校は工夫しているというのは学校サイドからみた私の評価でそこに満足していたところもあります。本来なら、こうした保護者の声、地域の声を聞き、その中でニーズを把握するといった双方向の評価をベースに、対話しながら学校にあった方法を創り出していく仕組みができていなかったということを感じました。

今、各家庭でも様々な工夫をされ、その中で悩んでいることも多く、それは学校も同様です。このメッセージはなんだか学校の扉を開けたような感じがします。今回の新型コロナウイルス感染症は日本社会の様々な課題を浮き彫りにしてきています。そして、少しずつ社会が変わろうとし、変わってきているのを肌で感じます。また、今後も大きく変化していく社会の中で、新たな社会を創っていくためには、学校・家庭・地域が対話を重ね、ワガゴトとして考え、ゴールを共有して、協働していかなければなりません。そうした中で未来を支える子どもたちは育っていくのだと考えます。このメッセージは学校・家庭・地域が対話を重ね、当事者(ワガゴト)として考え、ゴールを共有して、協働していく一歩を踏み出したように思えます。学校・家庭・地域が対話を重ね、当事者(ワガゴト)として考え、ゴールを共有して、協働していく仕組みがコミュニティ・スクールであり、これからの学びをデザインしていくことにもつながっていきます。そして、対話のツールとしてこれから Zoom のような Web 会議システムが活用されていくのではと思います。(文責:北本)

